

【科目名】	心理学統計法		【担当教員】	阿久津 洋巳
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修 hakutsu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 (オフィスアワー) 12:50~13:30 (火~木)	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。「心理統計法」を履修していることが条件になります。教科書を使って復習すること。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回宿題が出ますので、復習の時間を確保してください。宿題は他の人と協力して問題を解いてもよいですが、提出するレポートは自分で書いてください。宿題のレポートは必ず指定した日までに提出すること。試験結果とレポートは他に支障のない限り返却します。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>「公認心理師」資格受験に必要な大学における学修として以下の点を身につけてください。</p> <p>心理学で用いられる統計手法 統計に関する基礎的な知識</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性; R-2</p>				
(方法)				
代表的な統計的検定法を学習する。				
【一般教育目標(GIO)】				
基本的な統計検定法を習得する。				
【行動目標(SBO)】				
t検定ができる。1元配置の分散分析ができる。2乗検定ができる。単回帰分析ができる。データを使って統計分析を行い、結果をレポートにまとめることができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
山田・村井(著)よくわかる心理統計, ミネルヴァ書房, 2004年, ¥3024				
【参考書】				
小島寛之(著)完全独習統計学入門, ダイアモンド社, ¥1800 中村・松井・前田(著)心理統計法への招待, サイエンス社, 2006年, ¥2484				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストと課題レポートの成績を総合して評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		30	30	40					100
評価指標	取り込む力・知識	10	10	10					30
	思考・推論・創造の力	20	20	20					60
	コラボレーションとリーダーシップ			10					10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	記述統計の復習	講義	代表値と散布度の計算ができる。	
2	z 検定、 t 検定、 2乗検定の復習	講義、実習	t 検定などの統計的検定ができる。	
3	相関と回帰	講義	相関係数を説明できる。回帰直線を読み取れる。	
4	統計的仮説検定	講義	統計的仮説検定の役割を説明できる。	
5	すすんだ 2乗検定	講義	2 x 3、2 x 4 の分割表を扱える。	
6	t 検定の応用	講義、実習	片側検定と両側検定の違いを説明できる。	
7	分散分析(1)	講義、実習	分散分析と t 検定の違いを説明できる。	
8	分散分析(2)	講義、実習	1要因の分散分析を実行できる。	

9	分散分析（3）	講義、実習	2 要因の分散分析を実行できる。	
10	分散分析（4）	講義、実習	複雑な分散分析を実行できる。	
11	分散分析（5）	講義、実習	多重比較ができる。	
12	統計検定の実際（1）	講義、実習	心理学実験のデータを分析できる。 分析結果のレポートを作成できる。	
13	統計検定の実際（2）	講義、実習	心理学実験のデータを分析できる。 分析結果のレポートを作成できる。	
14	統計検定の実際（3）	講義、実習	心理学実験のデータを分析できる。 分析結果のレポートを作成できる。	
15	統計検定の実際（4）	講義、実習	心理学実験のデータを分析できる。 分析結果のレポートを作成できる。	